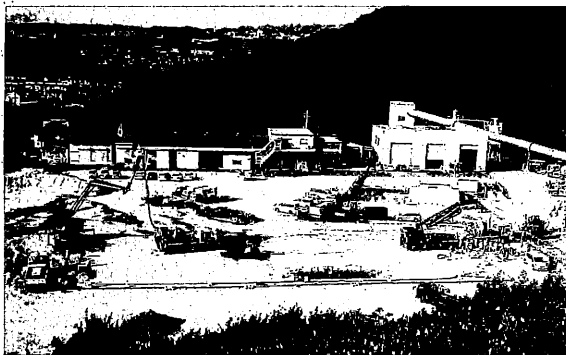


日本建築学会近畿支部材料施工部会・近圧協

第8回「フィールド実験」



フィールド実験の全景

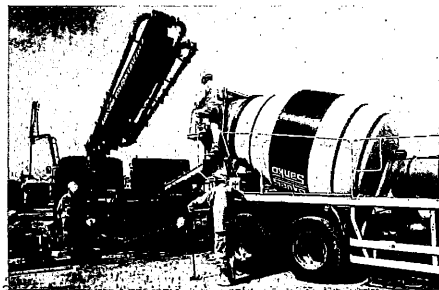
今回は土木の圧送性評価も対象に

日本建築学会近畿支部材料施工部会近畿支部WGは、近畿生コンクリート圧送協同組合(近圧協)吉田伸理理事長との共催で、一日から三日まで神戸市垂水区下畑町の(株)サンコーで第八回「フィールド実験」を実施した。二日、三日の実験には主催者の関係者、生コン業者、大学生ら毎日約六〇人が参加した。

圧送による空気量の増加原因など把握

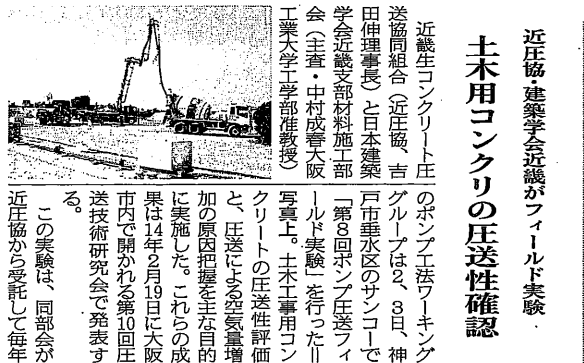


振動加速度の計測値を調査



生コンを投入する圧送用ポンプ車

建設と合わせて行った。目的は①土木工事で用圧送性評価ソフトに反映するコンクリートの圧送性(閉塞が起きること)を把握して評価し、圧送の原因把握と改善策の提案(室内実験の結果)を把握すること。②加するかどうかの確認。③戻り用生コン車に投入したコンクリートの圧送性の確認(内径一六、一六、一六の厚さ六、六のM型ジョイントを用いた。また、配管途中では、テーパー管リートの流れ方を評価。土を流さないこととした。つまり人間の血管を例えれば、聴診器で血液の流れ方を診察するイメージ)。



近畿生コンクリート庄のポンプ工芸ワーキング送協同組合(近圧協)吉田伸理理事長と日本建築学会近畿支部材料施工部会(主催・中村成章大阪工業大学工学部准教授)近圧協から委託して毎年

「フィールド実験」は、同部会が実施。部会からは中村主査、山崎順二主査

強度30Nスランプ18㎝、G20の普通コンクリート3調合(消泡剤・AE減水剤調整、フライアッシュ20%置換各1調合)を使用。

強度30Nスランプ18㎝、G20の普通コンクリート3調合(消泡剤・AE減水剤調整、フライアッシュ20%置換各1調合)を使用。

「ターミキサーを用いた同様の実験を行った。今回の実験結果については、近圧協が14年3月未だ予定している圧送性評価ソフトの更新に反映する予定。建築学会の山崎副主査は「土木工事にも圧送性評価ソフトを適用したい」という要望は以前から多く、実務者・研究者の双方にとって意義のある実験だ。空気量増加の原因が把握できれば、混和剤の技術開発につながる。実験結果をJASS5(建築工事標準仕様書・同解説鉄筋コンクリート工事)の指針改正に盛り込んでいきたい」と話している。

強度30Nスランプ18㎝、G20の普通コンクリート3調合(消泡剤・AE減水剤調整、フライアッシュ20%置換各1調合)を使用。

強度30Nスランプ18㎝、G20の普通コンクリート3調合(消泡剤・AE減水剤調整、フライアッシュ20%置換各1調合)を使用。

強度30Nスランプ18㎝、G20の普通コンクリート3調合(消泡剤・AE減水剤調整、フライアッシュ20%置換各1調合)を使用。